



## 立山・片淵・木場・夫婦川神輿守

諏訪社：立山1~5丁目  
住吉社：片淵3~5丁目  
森崎社：木場町、片淵1・2丁目、夫婦川

力強く美しく

## 6年に1度の大役にかける神輿を担ぐ男た

今年の長崎くんちのお下り・お上りでは、「立山・片淵・木場・夫婦川神輿守」が、

諏訪三社（諏訪、住吉、森崎）の神輿をお運びする大役を務めます！

☆担ぎ手4回、杖2回、幸領1回の経験を積み、初めて総幸領を務める大塚さん。



三体総幸領  
大塚英次さん

Q：担ぎ手時代のエピソードは？

A：昭和62年、お上りの途中で神職が乗っていた馬が神輿に突っ込んできたことです。

Q：大塚さんにとって「くんち」とは？

A：元気の源です！

### 【知ってク情報!!】

神輿の一番の見せ場「もりこみ」は別名「魂振り（たまふり）」ともいわれ、神輿を担ぎ全力疾走することで神輿をゆさぶり、神様の霊力を呼び覚ますとされています。迫力ある「もりこみ」は見る人たちに感動をもたらす。

☆曾祖父、祖父、父、伯父と代々神輿守に携わる中村さん。今年は長男、娘婿が担ぎ手



諏訪社 幸領  
中村敏宏さん

Q：くんちにかける意気込みを。

A：もりこみでは力の限り。もりこみをしない道中では粛々と。

Q：中村さんにとって「くんち」とは？

A：長崎市民として長崎に必要なもの、守っていくもの、伝えていくもの。



諏訪社神輿 稽古の様子

☆御年76歳!!日ごろからトレーニングを積み、最年長の幸領として、平成最後の神輿守に臨む青木さん。



住吉社 幸領  
左：青木勇さん  
右：大澤豊さん

Q：青木さんにとって「くんち」とは？

A：380年の伝統あるもの。怪我のないように立派にもりこみたい。

☆担ぎ手4回、脇添3回、今年で8回目を迎える大澤さん。

Q：大澤さんにとって「くんち」とは？

A：長崎人の伝統と誇りです。



住吉社神輿 稽古の様子

☆幼い頃から神輿が身近な家庭環境で育った浦川さん。



森崎社 幸領  
浦川富士男さん

Q：くんちにかける意気込みを。

A：前の神輿に離されないよう、力強く、美しく。怪我をさせないよう頑張りたい。

Q：浦川さんにとって「くんち」とは？

A：御神霊の再生を願うもの。伝統を守り、受け継ぎ、次世代を育てるもの。



森崎社神輿 稽古の様子

## 平成三十年度 くんち瓦版 第3号 長崎くんちの舞台

発行：平成30年9月20日  
長崎市地域支援室（中央地域センター内）  
長崎市桜町2番22号 電話829-14

～今回ご紹介する  
くんちを支える人たち

- 1 伝承したい長崎の技  
(有)松尾商店 松尾孝行さん
- 2 出島町  
藤間峰織貴（ふじまみねしき）師匠
- 3 東古川町  
東古川町婦人部長 安達妙子さん
- 4 立山・片淵・木場・夫婦川神輿

くんち本番まであとわずか。いよいよ稽古も終盤です。くんち瓦版では、くんちを支える人々にスポットをあて、ご紹介しています。今年度のくんち瓦版は、この第3号をもって終了とさせていただきます。これまで取材にご協力いただいた皆さま、お忙しい中貴重なお話を聞かせて

## 唯一、傘鉾のしめ縄を製作する職人

(有)松尾商店 松尾孝行さん



今年、紺屋町、本古川町、椛島町の傘鉾を手掛けます！  
神様へ奉納する気持ちを大切に、信念をもって製作しています。

## 伝承したい 長崎の技☆

### 【知ってク情報!!】

しめ縄は、傘鉾の上の飾りが鳥居や神具など、神社にゆかりがあるもの場

幼い頃から手伝いをして  
いる長女の川添千春さん

松尾さんは、父親の代からくんちに関わり、現在、傘鉾のしめ縄を製作する職人は松尾さんのみです。驚くことに、しめ縄に使用する「わら」は、稲ごと買い付けるそうです。色づく前の青々とした稲を刈って使用します。「将来の夢は、しめ縄づくりに最適な品種を田植えから育て、しめ縄を作りたい!!」と笑顔でこ

## 色づく前の青々とした

「しめ縄」の製作には松尾さんの信念が込められています。

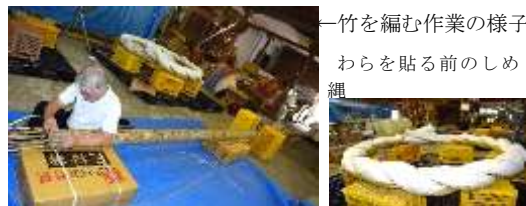
① 竹を編んで骨格

② 骨格を和紙でくるみ、仕上げは「わら」を1束1束貼り付けます。

☆竹を割り、皮を剥ぐ作業を極めるまでかかった歳月10年!!

☆大量の「わら」の準備は大変な労力ですが、手間は惜しみません!!

【わらを準備する手順】  
稲刈り(新わら)→天日干し→扇風機で風をあてる→乾燥機にかける→人の



一竹を編む作業の様子

わらを貼る前のしめ縄





国際貿易の舞台となった出島で繰り広げる

「静と動の調和」

江戸時代初期から、鎖国時代も世界に向け開かれていた「出島」。現在は、出島ワーフ、長崎県美術館、長崎国際テレビなど商業ビルが立ち並び、観光客やサラリーマンで賑わう町です。その出島町で生まれ育ち、演し物の舞踊指導



出島町は、生まれ育った特別な場所。過去に、出島町の本踊の踊り子として2回出演しました。今回も心を込めて努めて参ります。

藤間 峰織貴 ふじま みねしき 師匠 (織貴舞会会主)  
出島町のほか、興善町、金屋町の舞踊指導も手掛けています。出島町の指導は平成23年に続き今回で2回目。

Q: 演出するうえで心掛けていることは?

A: 出島町の一体感を出し、日本舞踊の伝統を守りながらも、世界へ向け開かれた町「出島」らしさを感じていただけるように心掛けています。

Q: 今回の見どころは?

A: 出島ならではの旗合わせ (阿蘭陀船入港時の検閲) やオランダさんと長崎の町娘との交流の様子を交えた踊りで日蘭の親交を表現しています。また、出島表門橋の完成にちなんで、踊りの中に橋を表現した振りを入れています。

Q: 峰織貴師匠にとって、「くんち」とは?

A: 「神事」、神様への奉納なので、きついことがあっても乗り越えることができるものと感じています。

[知ったク情報!!]

出島町の「傘鉾」と「阿蘭陀船」は、長崎出身のデザイナーで、福砂屋さんの包装紙のデザインを手がけた中山文

船をゆっくりと回す「静」  
(オルゴール回し)

勢いのある船回し「動」  
というメリハリのついた動きが特徴的



阿蘭陀船  
おらんだぶね



出島町  
でじままち



小学1年生を中心とした『こども舞踊隊』の稽古の様子。「いつも、神様に喜んでいただけるような踊りをしましょうと話しています。子どもたちの吸収力は抜群!」と峰織貴師匠。

軽快な船まわしが見どころ!  
明治29年から続く伝統の川船

昔ながらの町並みが色濃く残る、静かで落ち着いた雰囲気「東古川町」。100世帯余りの小さな町ですが、町民同士のつながりが強く、とても温かい町です。その東古川町で婦人部長として活躍されている安達妙子さんに、くんちに向けた町内の様子を伺いました。

川船  
かわふね



東古川町  
ひがしふるかわまち



東古川町婦人部長 安達妙子さん

長年親しまれたお店(きっちゃんせいじ)を閉店されたあと、これまでお世話になった皆さんに恩返ししたいとの思いで婦人部長を引き受けられた安達さん。「本番まで、無事に、和気あいあいと、楽しく頑張っていくます。」と話してくれま



[知ったク情報!!]

東古川町の町印は、渡り鳥の「雁金(かりがね)」。船回しのときの片肌脱ぎは、他の町は右袖を脱ぎますが、東古川町は「雁金」が隠れないよう左袖を脱



網打ちの稽古の様子

婦人部では撒きものや花御礼用の手ぬぐいの準備を行っています。囃子の子どものお母さん方から80歳を超えるおばあちゃんまで、幅広い世代がとても仲良く、楽しみながら活動しています。



アットホームな雰囲気の中手ぬぐいを準備する婦人部の皆さん



←「川船の大太鼓」前回、革を新しいものに張替えていましたが、今回、張替える前に描かれていた龍がきらびやかに蘇りました!! 必見です!!

HPでも「くんち情報」を発信しています。ぜひ、ご覧ください!!

長崎市 中央地域 くんち 検索 ← クリック